

宇賀屋敷遺跡

—個人住宅建設に伴う発掘調査報告書—

2013

甲州市教育委員会

宇賀屋敷遺跡

—個人住宅建設に伴う発掘調査報告書—

2013

甲州市教育委員会



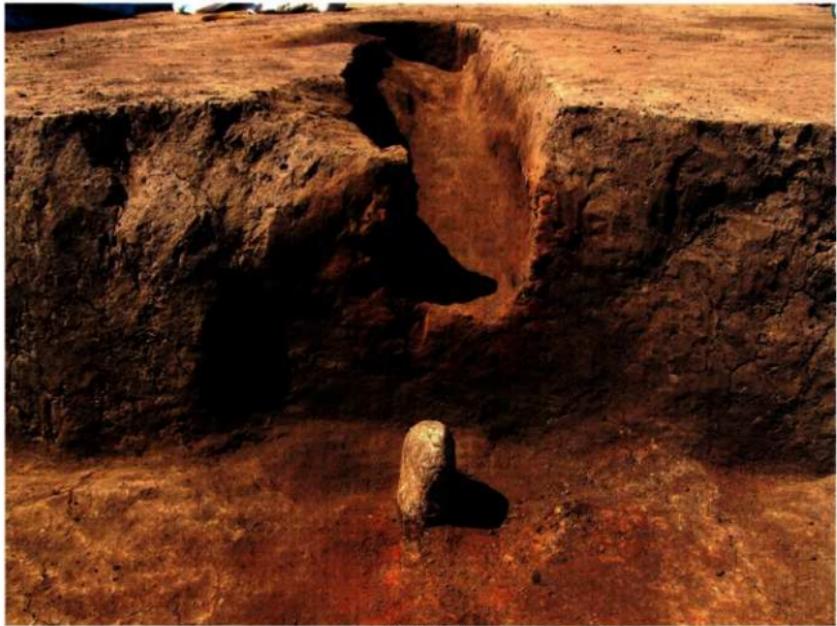
調査区全景（東から）



調査区全景（西から）



1号住居跡風景



1号住居跡マド

例 言

1. 本書は山梨県甲州市塩山下於曾字宇賀屋敷1026番4に所在する宇賀屋敷遺跡の発掘調査報告書である。
2. 本調査は、個人住宅建設に伴う発掘調査であり、甲州市教育委員会が調査を行った。
3. 発掘調査の主体は甲州市教育委員会であり、発掘調査は入江俊行（甲州市教育委員会生涯学習課文化財担当）が担当した。
5. 発掘調査は平成23年4月12日～5月31日、整理作業は平成24年4月～平成25年3月にかけて行われた。
6. 本書の編集・執筆は入江が行った。
7. 調査で得られた記録および出土遺物は、甲州市教育委員会が保管している。

凡 例

1. 本書で図示した地図類は真上北である。
2. 本書に掲載された図のスケールは統一されていないため、各図中に示したスケールを参照されたい。
3. 本書第1図は国土地理院発行の1/50,000地形図「御活昇仙峡」を、第2図は甲州市都市計画基本図(1/2,500)を改変して使用した。

目 次

巻頭カラー図版

例言

凡例

日次

第1章 経過

第1節 調査に至る経過	1
第2節 発掘作業の経過	1
第3節 整理作業の経過	2
第2章 遺跡の位置と環境	
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	3
第3章 調査の方法と成果	
第1節 調査の方法	4
第2節 層序	5
第3節 遺構	5
第4節 遺物	6
第4章 総括	7

図版

写真図版

抄録

図版目次

挿図1 基本上層模式図	5
第1図 宇賀屋敷遺跡と周辺の遺跡	8
第2図 調査区位置図	10
第3図 遺構配置図	11・12
第4図 1号住平面図・断面図	13
第5図 2号住、1号土坑、2号土坑、3号土坑平面図・断面図	14
第6図 1号溝、4号ピット平面図・断面図	15
第7図 2・3号溝平面図・断面図	16
第8図 山上遺物実測図	18

表目次

第1表 周辺遺跡一覧表	9
第2表 ピット一覧表	17
第3表 遺物一覧表	19

第1章 経過

第1節 調査に至る経過

本調査区は塙山下於曾字宇賀屋敷 1026 番 4 に位置する。調査区のすぐ西側には塙山中学校が隣接し、東側は塙山南児童センターに隣接する。当該地一帯は埋蔵文化財包蔵地である宇賀屋敷遺跡の範囲と考えられており、平成 4 年には塙山南児童センター建設に伴う発掘調査が行われた。その時の調査成果によれば、竪穴住居跡 6 軒、掘立柱建物跡 1 軒、土坑 1 基が検出されており、平安時代の集落遺跡の存在が明らかとなっている。そして、平成 23 年 3 月、先述の地番に個人住宅建設の計画があり、埋蔵文化財包蔵地であることから工事に先立って試掘調査を実施した。当初、工事範囲内に長さ 10m、幅 1m のトレーナーを設定し、遺跡の有無を確認したところ、地表から約 60cm 挖り下げた地点で、土器片などの遺物と複数の遺構の存在を確認したため、住宅建設工事により遺跡の破壊が想定される、約 216m² を対象に記録保存を目的とした発掘調査を行った。

第2節 発掘作業の経過

発掘調査は平成 23 年 4 月 12 日から 5 月 31 日まで、約 2 ヶ月間に渡って行われた。調査体制は次の通りである。

調査主体 甲州市教育委員会

調査担当者 飯島泉・雨宮亨・入江俊行

発掘調査作業員 雨宮久美子・栗原礼子・栗原洋一・沢登淳子・萩原里江子・深沢茂子・正木なつ子

経過

4 月 12 日 人力による試掘。遺物包含層・遺構を確認、本調査へ移行。

4 月 13 日 重機の手配がつかず、中止。

4 月 14 日・15 日 重機による表土剥ぎ

4 月 18 日～21 日 ジョレンかけ、遺構検出作業。表土剥ぎの結果、遺物包含層には達していたものの、地山面には達していなかったことがわかり、人力で地山面まで掘り下げ、遺構を確認した。

4 月 22 日 遺構削開始。東部から始める。(1～13 ピット、1 溝)

4 月 25 日 遺構削削 (1 号住居、2 号土坑)。1 溝が深さ 1 m を測る断面 V 字形の溝であることがわかる。出土遺物は土師器、須恵器(灰釉陶器?)、溝底面から常滑(窯?)破片。少なくとも中世以降に埋め戻されたか? 溝の年代は平安～中世と推定。2 号土坑を切る。1 号土坑断面図

4 月 26 日 遺構削削。1 溝断面図作成、ベルトはずし。2 号土坑断面図作成。

4 月 27 日 非常に風が強い。1 住、床面らしき硬化面を確認、その高さまでの削削を指示。2 上、ほぼ完削。

4 月 28 日 1 住ベルトを残し、ほぼ掘りあがってきている。床面、壁面も確認。北面にカマド、その床面付近から土器片出土。2 上完削、写真撮影。底面がやわらかく、粘性の高い黒色土で地山ではなかったためさらに掘り下げた。断面形態や下層で砂が混じることから井戸跡と考えられる。

5 月 2 日 1 住セクション図作成。3 十セクション図作成。調査区中央部の小穴削削開始。

- 5月9日 1住ベルト外し。3上穴掘・写真撮影。調査区西部遺構確認・溝遺構掘削開始。中央部の小穴
調査ほぼ終了（検出漏れ除く）。T Sによる測量開始…調査区上端、1住上端など。
- 5月10日 2溝掘削 午後2時過ぎ、降雨のため中止。
- 5月11・12日 降雨により中止。
- 5月13日 1住、遺物出土状況写真撮影。ナンバー付き遺物取り上げ。床面小穴掘削。カマド調査開始。
2溝ほぼ掘削完了。3溝掘削、1溝と同様の覆土、断面構造をもつ。同時代のものと考えられる。
- 5月16日 2溝・3溝断面図作成。溝・小穴の掘削。
- 5月17日 2溝・3溝完掘。全面清掃開始。1住カマド断面図作成。掘削。支柱石を検出。3時頃降雨に
より中止。
- 5月18日 カマドエレベーション図。調査区全体を清掃。1住の東側で遺構を確認。掘削開始。
- 5月19日 1住東側の遺構を2住とする。掘削。1住カマド下層断面図作成。遺構平面図をトータルステ
ーションで作成。
- 5月20日 全体写真撮影。各遺構の完掘写真撮影。測量。現場機材片付け。トイレ汲み取り。
- 5月23日 プレハブ・トイレ撤収。
- 5月24日 測量
- 5月25日 測量、現場終了
- 5月31日 埋め戻し

第3節 整理作業の経過

整理作業は平成24年4月から平成25年3月まで、甲州市内の整理作業室において実施した。遺構はトー
タルステーションによる測量成果や手取りの図面をもとに整理を行い、遺物は洗浄・注記・接合・実測・
写真撮影など一連の記録作業を行った。また、遺構・遺物とも図面・写真等の記録をデジタルデータに変
換して保存し、近年、山梨県でも利用が開始された遺跡資料リポジトリへの登録に対応できるようにした。

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

宇賀屋敷遺跡が所在する甲州市は、甲府盆地の北東隅に位置し、面積 264.01km²、人口 3万4千人の都市であり、平成 17 年（2005）11月 1 日に塩山市、東山梨郡大和村・勝沼町の 3 市町村が合併して発足した。西は山梨市・笛吹市に、東は笛子峠を境に大月市に、また大菩薩嶺や大菩薩峠を境に丹波山村・小芦村に、北は笛取山、唐松尾山を境に埼玉県秩父市に接している。市域の大部分は山地であり、人蔵谷宿付近の山地を水源とする重川と日川が市域を流れ、共に山梨市一町田中付近で笛吹川に合流している。市域西部にあたる重川や日川の流域では扇状地が発達しており、モモ、スモモ、ブドウ、サクランボなどの果樹園地帯として利用されている。JR 中央本線塩山駅あたりを中心として市街地が周辺に広がっている。

宇賀屋敷遺跡はその市街地の一角である甲州市塩山下於曾字宇賀屋敷に位置し、周囲は住宅地となっている。市街地は笛吹川と重川により形成された扇状地上にあり、宇賀屋敷遺跡は塩川と重川に挟まれた微高地上に立地している。遺跡の周辺には、北側には国宝「小桜草威鎧兜・大袖付」を所有する菅原天神社、北東側には中世の土豪屋敷とされる県指定史跡於曾屋敷などの文化財がある。

第2節 歴史的環境

宇賀屋敷遺跡が所在する下於曾は、上於曾と合わせて、律令期に設置された於曾郷の遺称と考えられており、旧塩山市域の大部分が於曾郷に含まれていたとされる。また、於曾郷は「和名類聚抄」によると、山梨郡十郷の一つで、郡を五郷ずつ東西に分けた場合は山梨東郡に所属していた。実際に於曾郷がどのような範囲で構成されていたのか、詳細は今のところ判明していないが、塩川と重川に挟まれた微高地上に立地する旧塩山市街地は上於曾・下於曾をはじめとして遺跡の包蔵地となっているところも多く、過去に発掘調査が行われた地点もみられる。以下に調査事例から概要を追ってみたい（第1図・第1表）。

甲州市内の調査事例は、道路建設などの公共事業に伴う発掘調査のものが大半を占めている。古くは昭和 50 年代の塩山バイパス建設に伴って西田遺跡、町田遺跡などの調査が行われている。

西田遺跡（37）は、塩山熊野に位置する古墳前期の集落遺跡で、塩山バイパス建設に伴う調査（1次調査）、塩山警察署新築工事に伴う調査（2次調査）、店舗新設に伴う調査（3次調査）と 3 回にわたり発掘調査が行われている。1 次調査では、〈縄文〉土坑 2、〈弥生後期〉竪穴住居 1、〈古墳前期〉竪穴住居 7、方形周溝墓 5、土坑 2、溝状遺構 5、〈奈良〉竪穴住居 1、獨立柱建物 1、〈時期不明〉溝状遺構 2 が検出されている。2 次調査では、〈古墳前期〉竪穴住居 54、溝状遺構 6、土坑などが検出され、3 次調査では、〈古墳前期〉竪穴住居 4、〈中世〉獨立柱建物 1、土坑 6 が検出されている。平安時代の遺構がみられないものの、縄文～中世にわたる遺跡であり、中でも数軒規模の古墳前期住居跡からなる集落と、方形周溝墓などの墓域が両方検出されている点は注目される。

町田遺跡（58）は、塩山下於曾に位置する縄文時代の集落遺跡で、塩山バイパス建設に伴って調査が行われた。〈縄文〉竪穴住居 8、溝、土坑などが検出されている。

少し時代が降って平成になると、塩山東バイパス建設に伴って、西畠 B 遺跡、下西畠遺跡、影井遺跡、大木戸遺跡、五反田遺跡、獅子之前遺跡などの調査が行われた。

西畠 B 遺跡（13）は、塩山赤尾に位置し、〈平安〉竪穴住居 7、溝 1、〈近世～近代〉道路遺構等が検出されている。

下西畠遺跡（14）は、塩山下於曾尾に位置し、〈縄文〉竪穴住居1、土坑4、〈古墳前期〉竪穴住居2、方形周溝墓4、〈奈良〉竪穴住居1、〈平安〉竪穴住居2が検出されている。

影井遺跡（19）は、塩山下於曾に位置し、〈平安〉竪穴住居3、〈平安～中世〉掘立柱建物などが検出されている。

大木戸遺跡（21）は、塩山下於曾に位置し、〈縄文時代〉竪穴住居14、土坑8、〈古墳前期〉溝1、〈平安〉竪穴住居20、土坑2、溝8、〈中世〉墓3などのほか、谷部から縄文～平安時代の遺物が検出されている。

五反田遺跡（22）は、塩山熊野に位置し、〈古墳前期〉竪穴住居6、竪穴状遺構3、〈平安〉竪穴住居11が検出されている。

獅子之前遺跡（92）は塩山千野に位置し、〈縄文〉竪穴住居7、土坑、〈弥生〉土坑（墓？）、〈奈良・平安〉竪穴住居10、土坑、〈近世〉道路状遺構などが検出されている。

道路以外にも、県営熊野団地に併せ調査が行われた一ノ坪遺跡（43）は、塩山熊野に位置し、〈縄文〉竪穴住居2、土坑、〈平安〉竪穴住居5、土坑、竪穴状遺構3、溝5が検出されている。

近年では、塩山バイパスと塩山東バイパスとを結ぶ予定の市道下塙後22号線建設に伴って調査された梶畠B遺跡（45）がある。梶畠B遺跡は、塩山下於曾から熊野にかけて存在し、〈縄文前期〉竪穴住居1、屋外炉、土坑、〈古墳前期〉竪穴住居2、〈平安〉竪穴住居5、小穴多数。〈中世〉竪穴状遺構1が検出されている。

また、宇賀屋敷遺跡から比較的近傍に位置する於曾屋敷（5・6）は、中世の上豪屋敷とされ、発掘調査により堀、土塁、土橋跡が見つかり、二重の土壁によって囲まれていたことなどが判明している。この於曾屋敷の周辺には十豪屋敷跡が点在しており、中村氏屋敷（50）、風間氏屋敷（47）、依田宮内左衛門屋敷（53）、田辺氏屋敷（54）、池田氏屋敷（3）、宇賀屋敷（2）、於曾三郎屋敷（98）、橋爪氏屋敷（97）、深沢氏屋敷（33）、依田兵部左衛門屋敷（32）、保坂氏屋敷（12）など、県内でも高い密度で土豪屋敷が存在するという特殊な地域もある。これらの土豪屋敷は、黒川金山で金の採掘・生産に携わった金山衆のものであろうとする説もあるが、いまのところ確証を得る段階には至っておらず、今後の調査や研究の進展が期待される。

以上のように概観すると、旧塩山市域では、縄文、古墳、平安時代の集落遺跡が多く分布していることが窺え、中世以降には遺跡の周辺で於曾屋敷などの屋敷群が形成されるなどの歴史的環境を備えた地域であるといえる。

第3章 調査の方法と成果

第1節 調査の方法

本調査区は塩山下於曾字宇賀屋敷1026番4に位置する（第2図）。調査区のすぐ西側には塩山中学校が隣接し、東側は以前発掘調査が行われた塩山南児童センターに隣接する。その時の発掘調査成果によれば、竪穴住居跡6軒、掘立柱建物跡1軒、土坑1基を検出しており、平安時代の集落跡と考えられた。

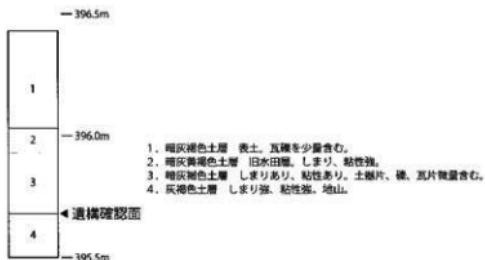
当初、工事範囲内に長さ10m、幅1mのトレンチを設定し、遺跡の有無を確認したところ、約60cm掘り下げた地点で、土器片などの遺物と複数の遺構を確認したため、住宅建設工事により遺跡が破壊される範囲、約216m²を対象に記録保存を目的とした調査を行った。

調査方法については、車機で表土剥ぎを行った後、人力による遺構確認・遺構掘削を行った。記録方法

については、トータルステーションによる座標点記録および手作業による測量と、デジタルカメラによる写真撮影を行った。

第2節 層序

調査区内の基本層序を把握するため、調査区南壁の観察を行い、第1層から第4層まで分層した。第1層は表土であり、層厚は約40cmで、現代のガラが含まれている。第2層は旧水田の床土と考えられる層で、色調は黄色がかったりおり、粘性は強く、層厚は約10cmで水平に堆積している。第3層は遺物包含層となっており、層厚は約25cm、土器片、石器片、瓦片などが含まれている。中でも平安時代の土師器片が包含層出土遺物の中で主体となっている。第4層はローム質の非常にしまりが強い無遺物層で、これを地山と判断して、本層上面を遺構確認面とした。



挿図1 基本土層模式図

第3節 遺構

今回の調査で検出された遺構は、竪穴住居跡2軒、溝4本、上坑3基、畝状遺構3本、小窓52基である（第3図・第2表）。

1号住居跡（第4図） 調査区南辺に位置し、約4.4m×3.1mの長方形を呈し、床面までの深さは遺構確認面から約50cmを測る。南側の一部は調査区外に延びる。北側の辺にカマドが付き、煙道は先端をピットにより切られるが、確認された長さは約1.2mを測る。燃焼部には支柱石が残存していた。遺物は土師器壺・壺の小破片が出土している。

2号住居跡（第5図） 1号住居の南東に隣接し、規模は大部分が調査区外に延びるため不明であるが、深さ約75cmを測る。住居内北西隅の1号住居と接するあたりに焼土が広がっており、そのあたりにカマドが構築されていたと考えられるが、1号溝に切られる。遺物は土師器壺・壺の小破片が出土している。

1号溝（第6図） 南北に走る直線的な溝で、幅約1m、深さ約60～80cmを測り、断面V字形を呈し、両端とも調査区外まで延びる。調査区南側で2号住居を破壊して構築されている。底面近くでは砂粒が堆積しており、水が流れていることが窺われる。遺物は土師器、須恵器、陶器、灰釉陶器の小破片が出土している。

2号溝（第7図） 調査区の南辺から西辺にかけて弧状に走る溝で、幅約60～70cm、深さ約20cmを測る。両端とも調査区外まで延びる。遺物は土師器、須恵器の小破片が出土している。

3号溝（第7図） 調査区の西側に位置し、南北に走る直線的な溝で、幅約0.5m～1m、深さ約40～

60cmを測る。断面はV字形を呈し、両端とも調査区外まで延びる。2号溝と1畝を切って構築される。底面近くでは砂粒が堆積することから水が流れていたことが窺われ、遺構の形態や覆土の特徴から1号溝との類似性が指摘できる。遺物は土師器、灰釉陶器の破片が出土している。

4号溝（第5図） 大部分が2号住居跡によって切られ詳細は不明である。深さ約20cmを測る。遺物は出土していない。

1号土坑（第5図） 調査区東辺に位置し、長さ約3.5m、幅約1mの不整長楕円形を呈し、深さ約30cmを測る。遺物は土師器、陶器の小破片が出土している。

2号土坑（第5図） 調査区の中央付近に位置し、径約1.5mの不整円形を呈し、深さ約1.6mを測る。断面は中位にゆるやかな稜をもち、漏斗形を呈する。遺構の形態から素掘りの井戸跡と考えられる。遺物は出土しなかった。

3号土坑（第5図） 調査区北側に位置し、径約60～80cmの不整円形を呈し、深さ約50cmを測る。遺物は出土しなかった。

畝状遺構 2溝付近で確認された浅い掘り込みをもつ溝で、3本確認した。約1.5mの等間隔で並ぶことから畝と判断した。1畝は確認された長さ約2m、幅約20cm、深さ約2cmを測り、3溝に切られる。2畝は長さ約2.8m、幅約10～20cm、深さ約3cmを測る。3畝は長さ約1.6m、幅約20～30cm、深さ約8cmを測る。遺物は出土しなかった。

第4節 遺物

今回の調査によって検出された遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器、陶器、土製品、石器、金属製品などであり、大半が土師器となっている。これらのほとんどが小破片であり、図示できるものが非常に少なかったが、図示できた若干の遺物について触れておく。（第8図・第3表）

1は高环の脚部である。环部は残存せず、表面は摩耗が著しい。古墳時代前期のものと考えられる。調査区内からS字口縁裏の小片なども出土しており、古墳前期をひとつのグループとする遺物群の存在が指摘できる。ただし、今回の調査区内にこれらと関連する遺構は推定できず、周辺に古墳前期集落の存在を示唆できるにすぎない。遺構外出土遺物である。2は甕の口縁部である。口縁はくの字形に外反しており、9世紀頃の所産と考えられる。2号住出土。3は环である。外面底部付近にヘラケズリの痕跡がみられ、9世紀頃の所産と考えられる。1号住出土。4は环である。外面、内面ともにヘラミガキが施されており、内面の暗文は放射状である。8世紀後半頃の所産と考えられる。2号住出土。5は甕である。外面、内面ともに縦、斜め方向のヘラケズリが施されている。年代は判然としないが、平安時代の所産と考えておく。4号ピット出土。6は須恵器の甕である。外面にタタキ、内面に当て具の痕が残る。2号溝出土。7は須恵器の甕である。外面にタタキが残る。遺構外出土。8は灰釉陶器の碗である。ロクロナデが施される。3号溝出土。9は灰釉陶器の皿である。ロクロナデが施される。遺構外出土。摩耗が著しい。10は手づくねの上製品で、欠けた部分もあり、模造原体が不明であるが、欠けた部分から推測するにコップ状を呈していたと考えられる。突起をもつコップ状の形態か、反対側にも突起をもっていたとも考えられるが判然としない。器状の形態であったと想定し、ここでは手づくね土器としておきたい。1号住のカマド付近から出土。11は磨石である。石材は花崗岩である。1号住出土。12は銅製品である。半球形中空の製品で、孔が小さい方の延長部分が欠けており、全体の形状は不明である。仏具か。遺構外出土。

第4章 総括

調査の結果、竪穴住居跡が2軒（1・2住）検出したことから、当該地点が東側に隣接する塩山南兜童センター地点で発見された集落の一一部であることが確認された。いずれも9世紀代の住居跡と考えられ、山上遺物の年代からも矛盾は生じない。

2号上坑は遺物こそ出土しなかったが、おそらくは同時期に集落内で用いられた井戸跡と考えられる。また、畝状遺構の主軸方向が住居の主軸ともかなり近いことから、これも集落が営まれた時期と同時期のものと推定される。

1号溝は、2号住居を破壊して構築される。住居跡との主軸方向の相違や出土遺物の年代から、集落が営まれた時期よりも新しいものと考えられる。また、遺構の平面・断面形態や覆土が1号溝と類似する3号溝も、1号溝と近い時期の所産であろう。1号溝の底面からは常滑産の甕の破片が出土していることから、少なくとも1号溝が埋め戻された時期が中世以降と考えられ、平安期の集落が廃絶し、中世に入ると土地利用の改変が行われた様子が観察できる。また、当地の字名は宇賀屋敷と呼び、その周囲は於曾屋敷、田辺氏屋敷、風間氏屋敷など中世城館に囲まれている環境にあり、1・3号溝が、果たしてこのような屋敷跡と直接関わるような遺構であるのかは判然とはしないが、直線的な平面形態からは区画を意図したようにも考えられ、こうした遺構の性格については今後の検討課題である。

以上のように、今回の調査によって発見された遺構は、平安～中世の遺構であり、当地における平安時代の集落の存在と、集落廃絶後の土地利用の変化を窺い知ることができる貴重な発見であり、今後の調査によって平安集落と屋敷地との関係が、より詳らかになることを期待したい。

【参考文献】

- 清雲俊元 1986 「黒川金山と土豪屋敷」『山梨県の中世城館跡』山梨県教育委員会
山梨県教育委員会 1991 『獅子之前遺跡』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第61集
山梨県教育委員会 1997 『一ノ坪遺跡』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第141集
山梨県 1998 『山梨県史 資料編1 原始・古代1 考古（遺跡）』
塩山市史編さん委員会 1999 『塩山市史 通史編 上巻』
山梨県教育委員会 2002 『五反田遺跡』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第194集
山梨県教育委員会 2002 『下西畠遺跡 西畠遺跡 影井遺跡 保坂家屋敷跡』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第196集
山梨県教育委員会 2003 『大木戸遺跡』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第205集
(財)山梨文化財研究所ほか 2012 『梶畠B遺跡』甲州市文化財調査報告書 第10集

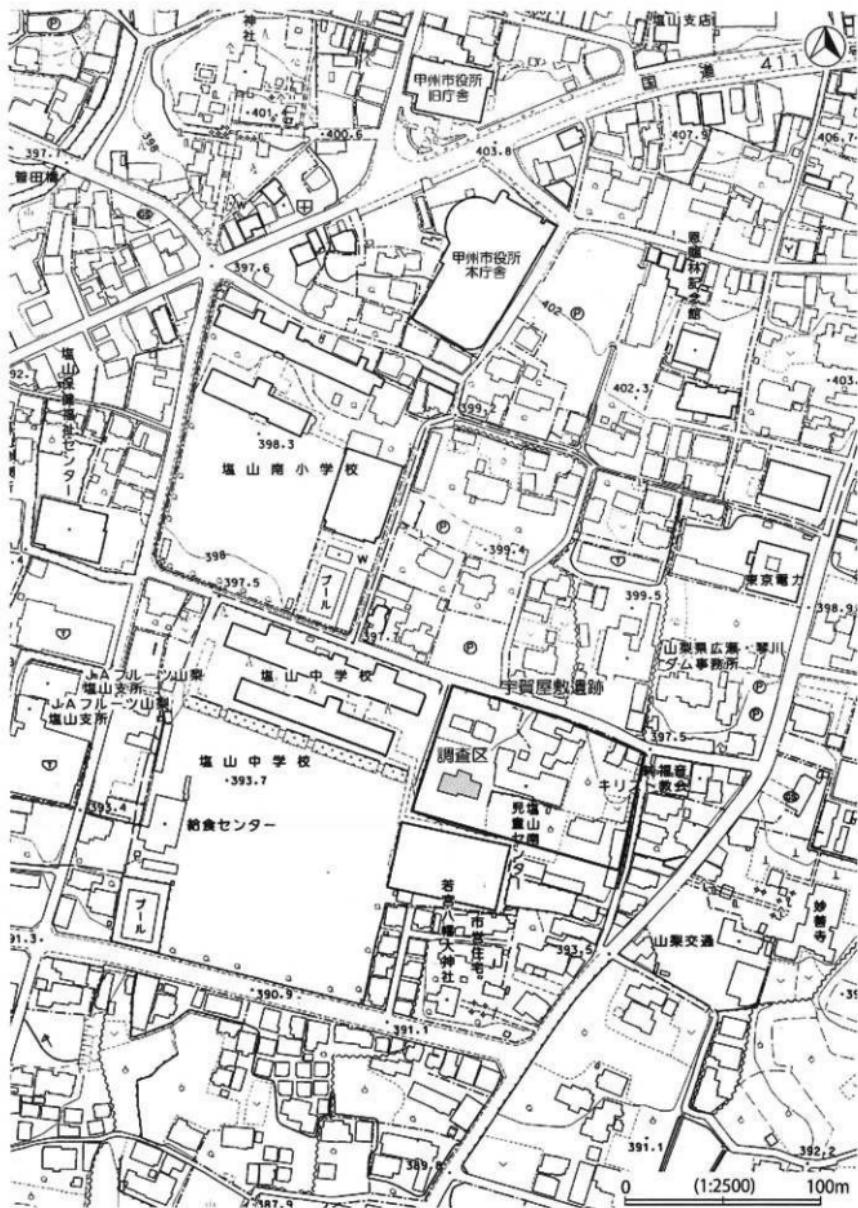


第1図 宇賀屋敷遺跡と周辺の遺跡

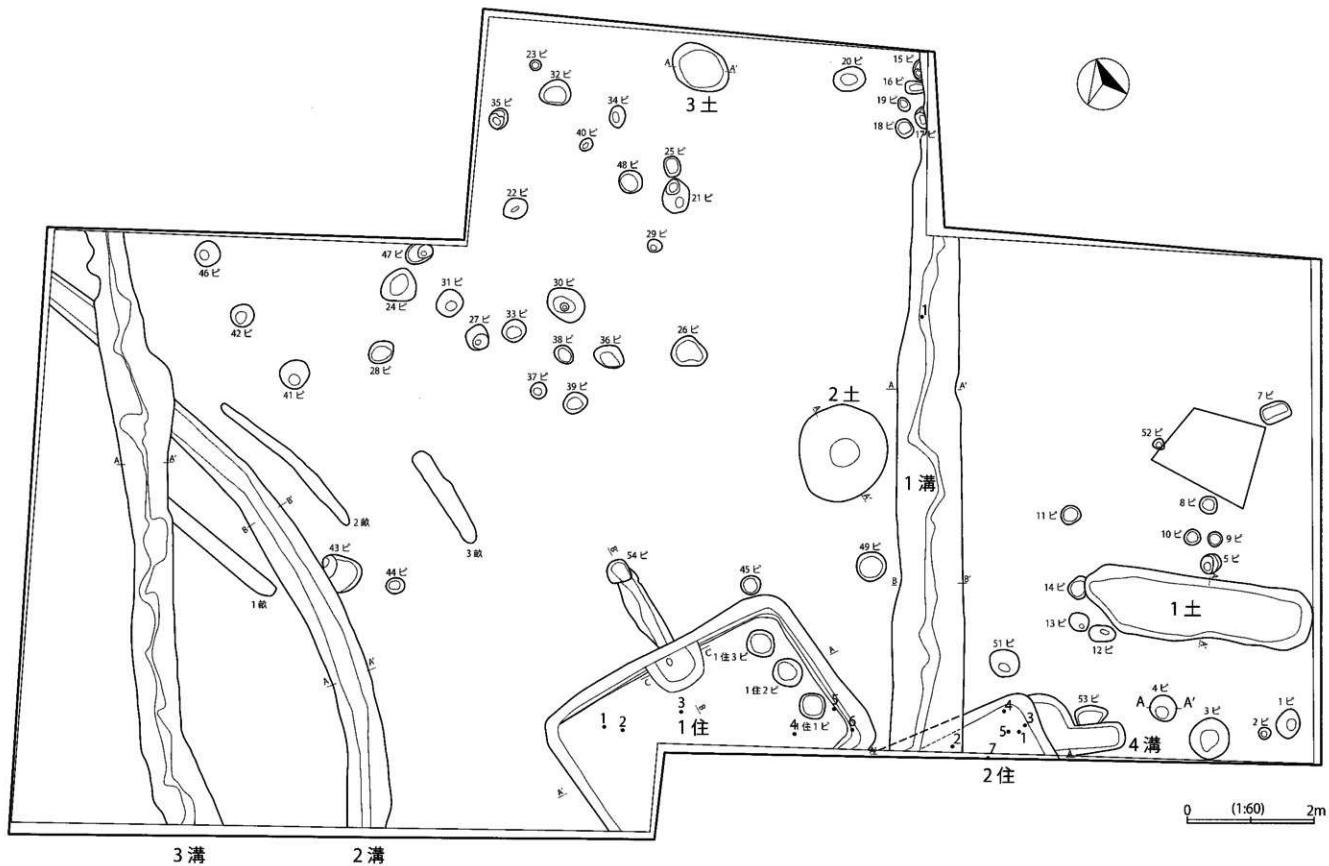
第1表 周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	種別	所在地	時期
1	宇賀原遺跡	集落跡	下於曾	奈良・平安・中世
2	宇賀里遺跡	城跡跡	下於曾	
3	袖山氏廢敷	城跡跡	下於曾	中世
4	街田天神社遺跡	散布地	上於曾	绳文
5	於曾巣聚	城跡跡	下於曾	
6	於曾巣聚遺跡	城跡跡	下於曾	平安・中世
7	頭板遺跡	散布地	下於曾	中世
8	神之木遺跡	散布地	下於曾	绳文・古墳・平安
9	林原遺跡	散布地	下於曾	绳文・平安・中世
10	天神原遺跡	散布地	下於曾	绳文・平安
11	西塔 A 遺跡	散布地	赤尾	平安・中世
12	保坂氏廢敷	城跡跡	赤尾	
13	西塔 B 遺跡	散布地	赤尾	绳文・中世
14	下西塚遺跡	散布地	赤尾	绳文・弥生・古墳
15	八代氏废敷	城跡跡	赤尾	
16	大沢遺跡	散布地	赤尾	绳文・古墳・平安
17	久保田遺跡	散布地	赤尾・下於曾	平安
18	頭板遺跡	散布地	赤尾	中世
19	彭井遺跡	散布地	下於曾	绳文・平安
20	池田遺跡	散布地	赤尾	中世
21	横井・大木戸遺跡	散布地	赤野・下於曾	平安
22	五反田遺跡	散布地	赤野	古墳
23	石舟 3 号跡	散布地	赤野	
24	古舟 A 遺跡	散布地	赤野	绳文・平安
25	熊野八反田溝跡	散布地	赤野	平安
26	下原田遺跡	散布地	赤野	绳文
27	着ケノ上塚跡	散布地	赤野原	绳文
28	西ノ原の塚	城跡跡	赤野原	中世
29	坂之上・后指道跡	散布地	赤野	平安
30	今力手遺跡	散布地	赤野	古墳・平安
31	三山塚	空	赤野	
32	佐田兵左衛門門前聚落跡	城跡跡	赤野	中世
33	深沢氏廢敷	城跡跡	赤野	
34	赤野剣田遺跡	散布地	赤野	平安
35	中塗溝跡	散布地	赤野	平安
36	赤野井社遺跡	散布地	赤野	古墳
37	西田溝跡	城跡跡	赤野・西山田門前	绳文・奈良
38	東田溝跡	集落跡	西広門田	绳文・古墳
39	井原田遺跡	散布地	西広門田	绳文・古墳
40	西塚遺跡	散布地	西広門田	平安
41	佐保木平道跡	散布地	下塙後	平安
42	村北遺跡	散布地	西広門田	奈良・平安
43	一ノ町跡	散布地	赤野	绳文・平安
44	横塚 A 遺跡	散布地	赤野	古墳・奈良・平安
45	横塚 B 遺跡	集落跡	下於曾・赤野	绳文・古墳・平安
46	下於曾 A 反田道跡	散布地	下於曾	平安
47	梶原氏廢敷	城跡跡	下於曾	
48	正京 A 遺跡	散布地	下於曾	古墳・平安
49	正京 B 遺跡	散布地	下於曾	
50	中村氏废敷	城跡跡	下於曾	
51	赤塚跡	散布地	下於曾	绳文
52	愛地遺跡	散布地	下於曾	平安
53	佐田北之左衛門門前聚落跡	城跡跡	下於曾	中世
54	田辺氏废敷	城跡跡	下於曾	中世
55	持原遺跡	散布地	下塙後・西広門田	奈良・平安
56	前田 B 遺跡	散布地	下於曾・西広門田	奈良・平安
57	前田 A 遺跡	散布地	下於曾・西広門田	绳文
58	町田遺跡	集落跡	下於曾	绳文

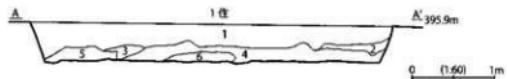
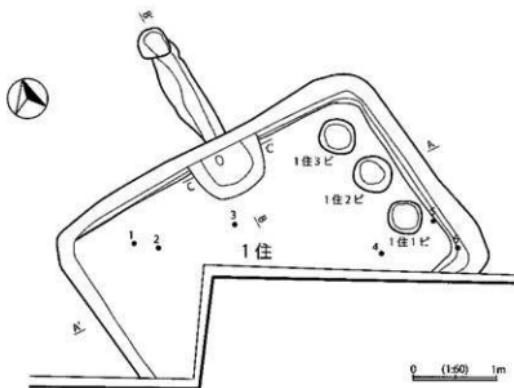
番号	遺跡名	種別	所在地	時期
59	前田 C 遺跡	散布地	下於曾・西広門田	绳文・奈良・平安
60	十王前遺跡	散布地	下塙後	平安
61	癡切塚	塚	下塙後	中世・近世
62	御井平通跡	散布地	下塙後	
63	清水川通跡	散布地	下於曾	奈良・平安
64	悟體遺跡	散布地	上於曾	佛生・古墳
65	知光田通跡	散布地	上塙後・下塙後	
66	上塙後塚道跡	散布地	下塙後	
67	村廿人稻荷塚	塚	下塙後	
68	福井林遺跡	散布地	上塙後	
69	おまえ程跡	塚	上塙後	
70	吉之前遺跡	散布地	上塙後	
71	清水尻通跡	散布地	上塙後	绳文・古墳・平安
72	她的官署	塚	上塙後	
73	千手院前通跡	散布地	上塙後	绳文
74	萬林遺跡	散布地	上塙後	绳文・中世
75	瑞山蛇道跡	散布地	I塙後	绳文
76	赤山城跡	散布地	上井尻	平安・中世・近世
77	青木沢通跡	散布地	上井尻	
78	舟嶽大万丈跡	社寺跡	上於曾	近世
79	兜壁寺遺跡	社寺跡	上於曾	近世
80	舞香遺跡	散布地	三日市場	绳文・近世
81	舞越通跡	散布地	三日市場	
82	中原通跡	散布地	三日市場	绳文・平安
83	青田 B 遺跡	散布地	千野	绳文・平安
84	青田 A 遺跡	散布地	千野	平安
85	利田山屋敷	城跡跡	千野	中世
86	八舟田西湖跡	散布地	千野	绳文・平安
87	丸之辻 A 遺跡	散布地	千野	平安
88	丸之辻 B 遺跡	散布地	千野	绳文・平安
89	音吾山事跡	散布地	千野	绳文・平安
90	武田名春郵跡	城跡跡	千野	中世
91	小山平瀬溝跡	散布地	千野	绳文・平安
92	野子之前溝跡	集落跡	千野	绳文・弥生・平安
93	古屋溝左町門隣聚落跡	城跡跡	千野	
94	梅ノ木塚跡	散布地	上於曾	
95	梅ノ木塚	塚	上於曾	
96	五文殊塔跡	塚	上於曾	
97	鷹川氏廢敷	城跡跡	上於曾	
98	於曾三景廬跡	城跡跡	上於曾	
99	稻ノ田通跡	散布地	赤尾	绳文・古墳・平安
100	赤尾堀口堤防	堤防	赤尾	近代
101	御宿前田通跡	散布地	下生于野	绳文
102	浜在本通跡	散布地	下生于野	绳文・平安
103	牛久保通跡	散布地	上生于野	
104	平城	城跡跡	下萩原	
105	南畠通跡	散布地	下萩原	佛生



第2図 調査区位置図

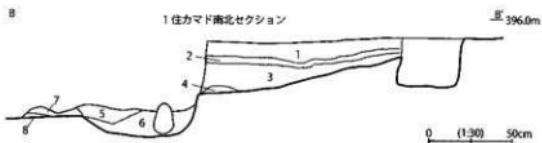


第3図 遺構配置図



1住層説明

1. 喀麥褐色土層 しまり強い、粘性あり、ロームブロックを多く含む、焼土粒微量含む、白色粒子（砂？）微量含む。
2. 黒褐色土層 しまり強い、粘性あり、ロームブロックを含む。
3. 黑褐色土層 しまり強い、粘性あり、ロームブロック少量含む。
4. 喀麥褐色土層 しまり強い、粘性強い、ロームブロックを多く含む。
5. 喀麥褐色土層 しまり強い、粘性強い、ロームブロックを多く含む。
6. 喀麥褐色土層 しまり強い、粘性あり、ロームブロック含む。



土層説明

1. 喀麥褐色土層 しまりあり、粘性あり、ローム粒微量含む、焼土粒微量含む。
2. 喀麥褐色土層 焼土層、しまりあり、粘性あり。
3. 喀麥褐色土層 しまりやや弱い、粘性あり、焼土粒微量含む。
4. 明赤褐色土層 焼土層、しまりあり、粘性あり、喀麥褐色土層含む。
5. 喀麥褐色土層 しまりあり、粘性あり、焼土粒微量含む。
6. 喀麥褐色土層 しまりあり、粘性あり、焼土粒多量、炭化粒含む。
7. 明赤褐色土層 焼土層、しまりあり、粘性あり。
8. 喀麥褐色土層 しまりあり、粘性あり、焼土粒微量含む。

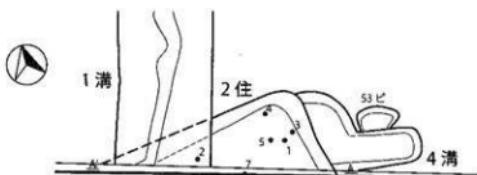
1住カマド東西セクション



土層説明

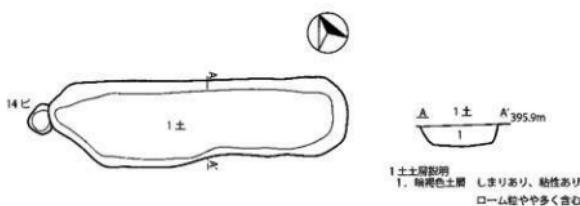
1. 明赤褐色土層 焼土層、しまりあり、粘性あり、喀麥褐色土層含む。
2. 喀麥褐色土層 しまりあり、粘性あり、ローム粒多量含む。
3. 喀麥褐色土層 しまりあり、粘性あり、焼土粒多量、炭化粒含む。
4. 喀麥褐色土層 しまりあり、粘性あり、ローム粒多量含む。

第4図 1号住平面図・断面図

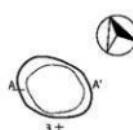
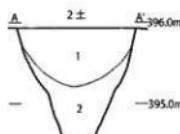
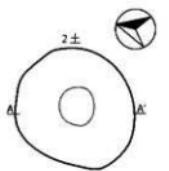


2住土層説明

1. 暗褐色土層 1号溝土。砂質。しまりややあり、粘性ややあり。ローム粒微量含む。
2. 黒褐色土層 しまりあり、粘性あり。ローム粒・焼土粒微量含む。
3. 陶褐色灰土層 しまりあり、粘性あり。
4. 暗褐色土層 しまりあり。粘性あり、ロームブロックを多く含む。
5. 黑褐色灰土層 しまりあり。粘性あり、液化珪微量含む。
6. 3層に似る。



1土土層説明
1. 暗褐色土層 しまりあり、粘性あり、ローム粒や多く含む。

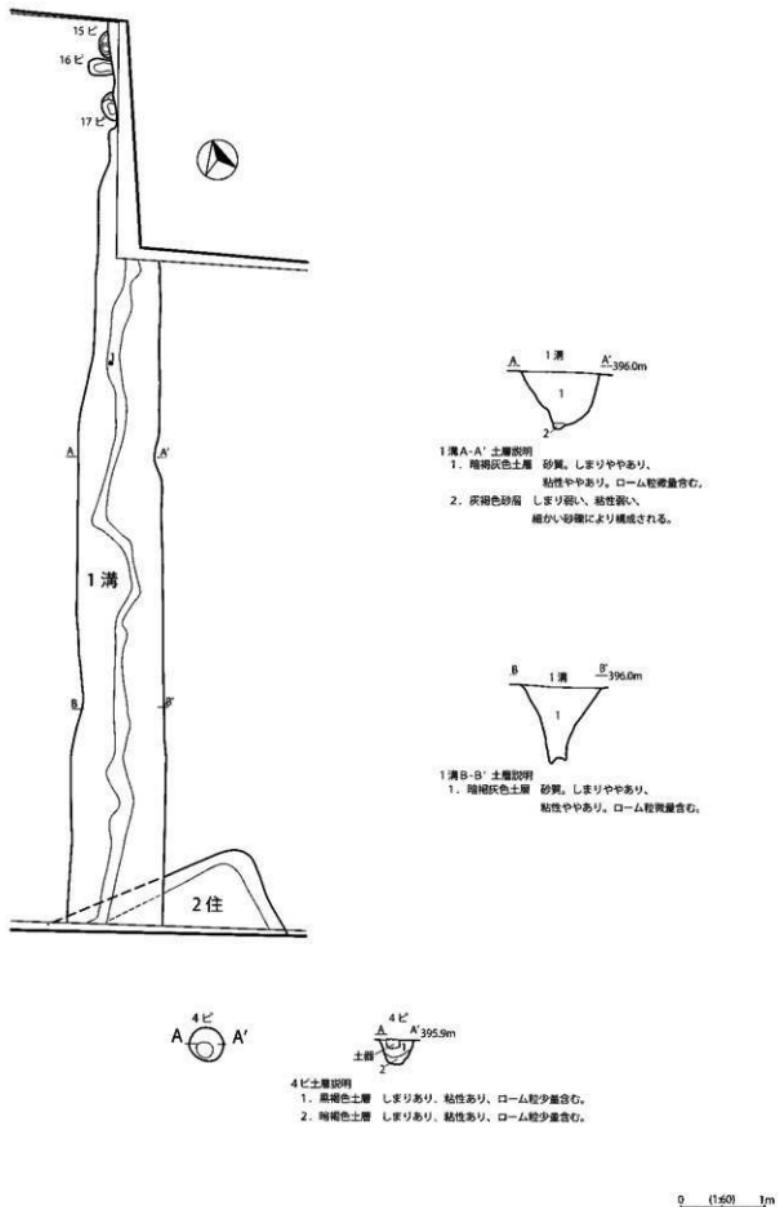


3土土層説明
1. 暗褐色土層 しまり強い、粘性あり、砂粒を少含む。
2. 黑褐色土層 しまり強い、粘性強い、砂粒を少量含む、焼土粒微量含む。

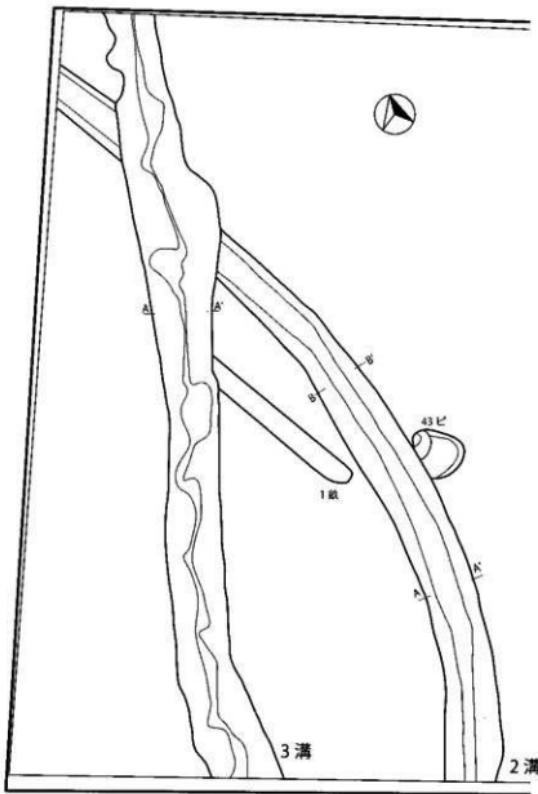
2土土層説明
1. 黑褐色土層 しまりあり、粘性あり、ロームブロックを多く含む。
2. 黑褐色土層 しまり強い、粘性強い。
底面付近で砂礫を少量含む。

0 (150) 3m

第5図 2号住、1号土坑、2号土坑、3号土坑平面図・断面図



第6図 1号溝、4号ビット平面図・断面図



A-A' 2溝 395.9m

2溝 A-A' 土層説明
1. 増粘土層 しまりあり、粘性あり。

B-B' 2溝 E395.9m

2溝B-B' 土層説明
1. 増粘土層 しまりあり、粘性あり。
ローム粒少量含む。
2. 増粘角土層 しまりあり、粘性弱い。
ロームブロック少量含む。

C-C' 3溝 A' 395.9m

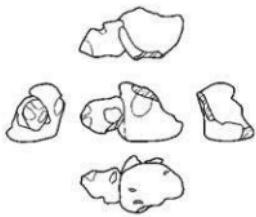
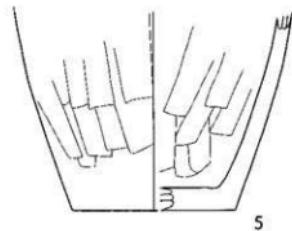
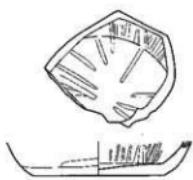
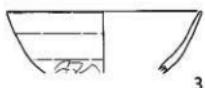
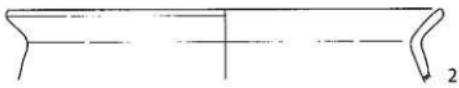
3溝土層説明
1. 増粘灰色土層 砂質。しまりあり、粘性あり。
ローム粒微量含む。
2. 増粘灰色土層 砂質。しまりややあり、粘性あり。
ローム粒微量含む。1層よりやや明るい。
3. 増粘灰色土層 砂質。しまりややあり、粘性あり。
ローム粒少量含む。

0 (1:60) 1m

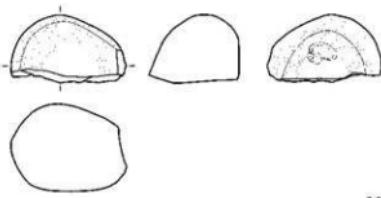
第7図 2・3号溝平面図・断面図

第2表 ピット一覧表

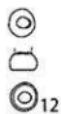
選択名	平面形	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備考
1号ピット	橢円形	46	37	21	
2号ピット	円形	19	18	7	
3号ピット	円形	65	61	27	
4号ピット	円形	42	41	32	
5号ピット	円形	32	31	23	
6号ピット	-	-	-	-	欠番
7号ピット	橢円形	47	31	13	
8号ピット	円形	28	27	15	
9号ピット	円形	23	21	13	
10号ピット	円形	26	25	11	
11号ピット	不整円形	31	28	12	
12号ピット	橢円形	42	25	50	
13号ピット	円形	33	29	50	
14号ピット	不整円形	36	29	32	
15号ピット	橢円形	32	-	14	
16号ピット	橢円形	-	-	20	28
17号ピット	橢円形	33	-	19	
18号ピット	円形	30	26	22	
19号ピット	円形	23	18	25	
20号ピット	橢円形	50	38	49	
21号ピット	不整橢円形	55	42	23	
22号ピット	不整円形	40	33	11	
23号ピット	円形	17	16	46	
24号ピット	不整円形	58	51	22	
25号ピット	橢円形	32	25	12	
26号ピット	不整円形	53	48	20	
27号ピット	不整円形	40	37	59	
28号ピット	不整円形	43	34	24	
29号ピット	円形	23	19	48	
30号ピット	不整円形	63	50	31	
31号ピット	不整円形	43	37	48	
32号ピット	不整橢円形	49	40	31	
33号ピット	不整円形	35	35	30	
34号ピット	橢円形	35	24	30	
35号ピット	橢円形	33	28	50	
36号ピット	不整橢円形	49	36	28	
37号ピット	円形	26	24	22	
38号ピット	橢円形	32	26	26	
39号ピット	不整橢円形	39	33	19	
40号ピット	橢円形	22	16	29	
41号ピット	円形	47	44	46	
42号ピット	円形	37	36	35	
43号ピット	不整橢円形	65	-	30	
44号ピット	円形	29	25	16	
45号ピット	円形	31	30	20	
46号ピット	円形	41	38	41	
47号ピット	橢円形	45	32	43	
48号ピット	円形	36	36	27	
49号ピット	円形	47	46	21	
50号ピット	-	-	-	-	欠番
51号ピット	円形	50	44	38	
52号ピット	不整円形	19	17	13	
53号ピット	不整橢円形	51	-	20	
54号ピット	不整円形	39	35	29	1住を切る



10



11



0 (13) 5cm

第8図 出土遺物実測図

第3表 遺物一覧表

土器觀察表

図	地点	番号	種別	器種	法量(cm)			調整	色調	胎土	残存率	注記	備考
					口径	底周	底径						
8	道橋外	1	土師器	高环	-	(4.7)	-	外ヘラミガキ、内ヘラケズリ	明褐色	黒・赤・白色粒子	20%	ウガ面上	脚部
8	2号住	2	土師器	壺	(26.6)	(4.3)	-	外ナデ、内ナデ	褐色	黒・白色粒子	10%	ウガ2住No.7	口縁
8	1号住	3	土師器	坪	(13.0)	(3.8)	-	外ナデ、ヘラケズリ、内ナデ	赤褐色	黒・赤色粒子	20%	ウガ1住	口縁～底部
8	2号住	4	土師器	环	-	(2.1)	(0.0)	外ミガキ、内ミガキ	赤褐色	赤・黒色粒子	30%	ウガ2住No.1	底部～底部
8	4号ヒット	5	土師器	壺	-	(12.2)	(10.0)	外・内ヘラケズリ	暗赤褐色	黒母・白・黒色粒子	20%	ウガ4ビNo.1	底部～底部
8	2号溝	6	須恵器	壺	-	-	-	外・内タタキ	暗灰褐色	黒色粒子	小片	ウガ2ミゾ	脚部
8	道橋外	7	須恵器	壺	-	-	-	外・内タタキ	灰褐色	黑色粒子	小片	ウガ面上	脚部
8	3号溝	8	灰陶器	壺	-	(2.1)	(8.4)	外・内ナデ	灰褐色	黑色粒子	10%	ウガ3ミゾト番	底部～脚部
8	道橋外	9	灰陶器	环	-	(1.3)	(10.0)	外・内ナデ	灰褐色	黑色粒子	15%	ウガ面上	底部

土製品觀察表

図	地点	番号	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	注記	備考
					長さ	幅	高さ				
8	1号住	10	手づくね土器?		(6.1)	(3.6)	(3.6)	暗赤褐色	黒母・白色粒子	ウガ1住カマNo.1	

石器觀察表

図	地点	番号	種別	器種	法量(cm)			石材	注記	備考
					長さ	幅	厚さ			
8	1号住	11	研石		(4.2)	7.0	5.4	花崗岩	ウガ1住No.6	

金属製品觀察表

図	地点	番号	種別	器種	法量(cm)			材質	備考
					長さ	幅	高さ		
8	道橋外	12			1.7	1.6	(1.1)	鋼	仏具?



調査区全景（東から）

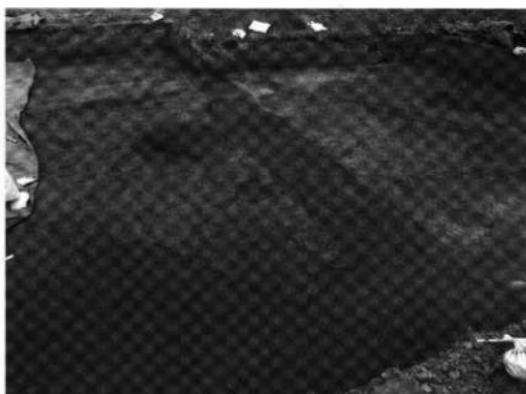


調査区全景（西から）

写真図版2



遺構検出作業風景



遺構検出状況



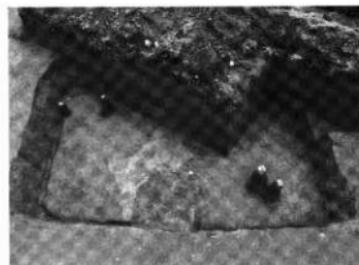
遺構検出状況



1号住断面



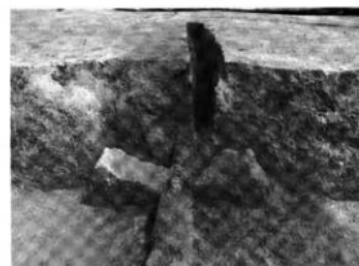
作業風景



1号住遺物検出状況



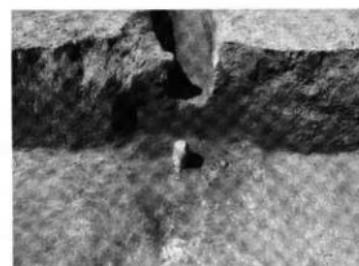
1号住カマド断面



1号住カマド断面



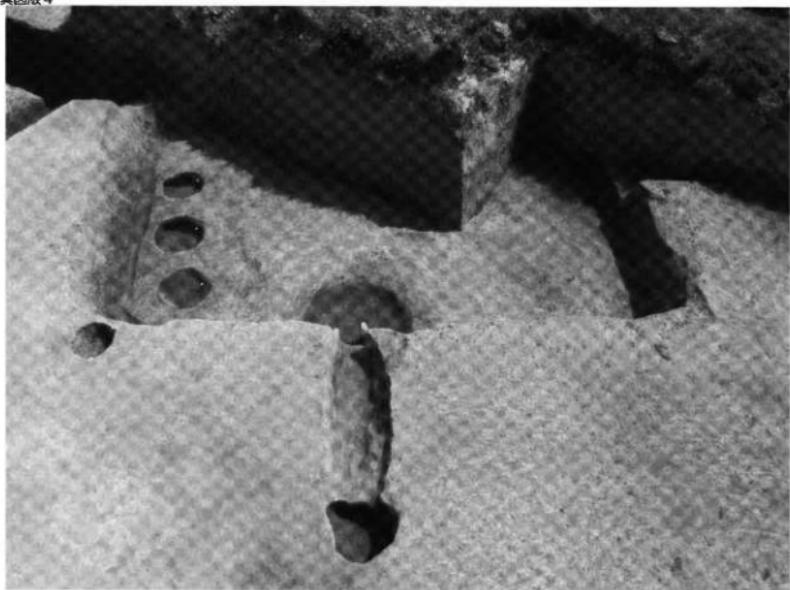
1号住カマド烟道



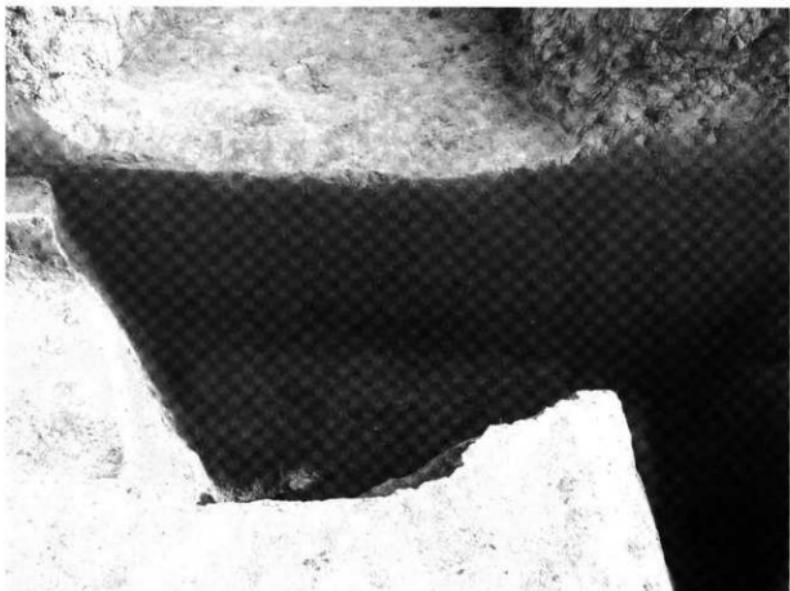
1号住カマド



1号住カマド土製品出土状況



1号住完掘



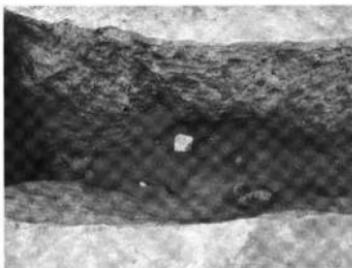
2号住完掘



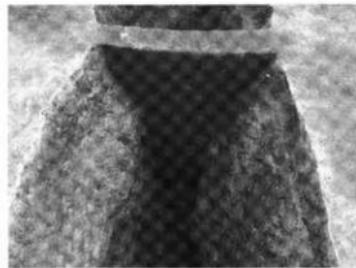
1号溝調査風景



1号溝断面



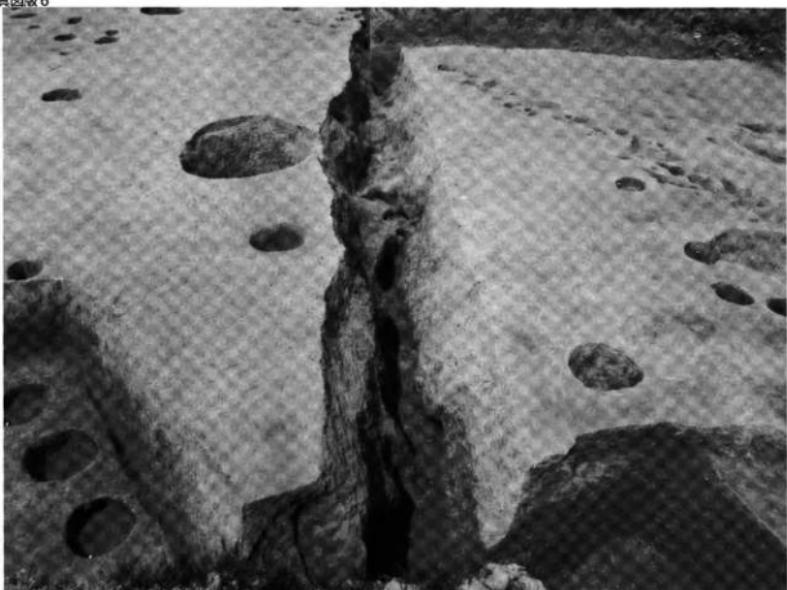
1号溝遺物出土状況



1号溝断面



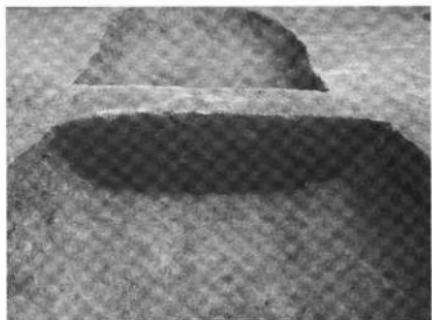
1号溝遺物出土状況



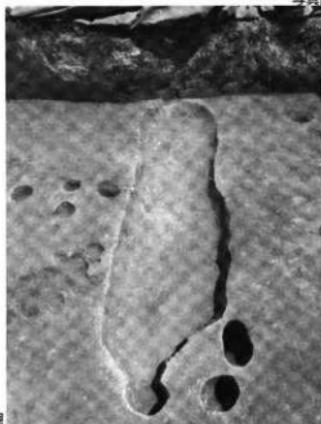
1号溝完掘



2・3号溝完掘



1号土坑断面



1号土坑完掘



2号土坑断面



2号土坑完掘

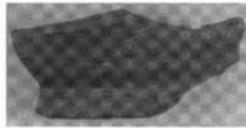


4号ピット遺物出土状況

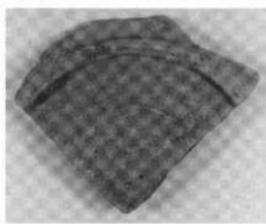
写真図版8



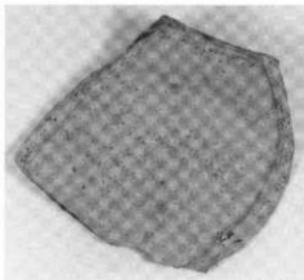
調査風景



第8図8



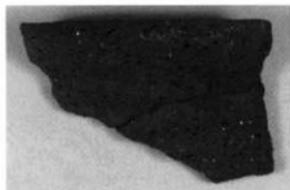
第8図9



第8図4



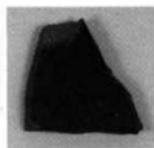
第8図5



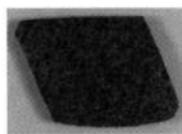
第8図2



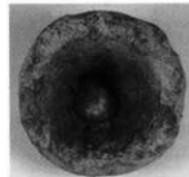
第8図3



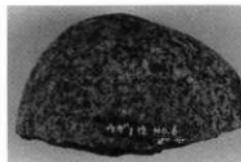
第8図6



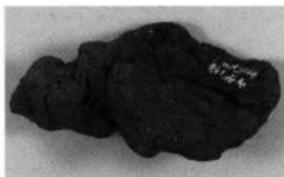
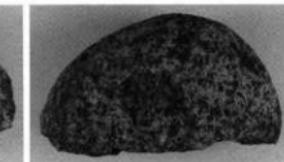
第8図7



第8図1



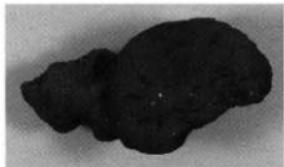
第8図11



第8図13



第8図10



報告書抄録

ふりがな	うがやしきいせき
書名	宇賀屋敷遺跡
副書名	個人住宅建設に伴う発掘調査報告書
シリーズ名	甲州市文化財調査報告書
シリーズ番号	第13集
編著者名	入江俊行
編集機関	甲州市教育委員会
所在地	〒404-8501 山梨県甲州市塙山上於曾 1085-1 電話 0553-32-5097
発行年月日	平成25年3月31日

ふりがな	ふりがな	コード	世界割地系		調査期間	調査面積	調査原因
			市町村	遺跡番号			
宇賀屋敷遺跡	甲州市塙山上於曾 宇賀屋敷 1026 番4	19213	塙 47	35° 42' 7"	138° 43' 45"	平成23年4月12日～5月31日	約216m ² 個人住宅建設

所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
宇賀屋敷遺跡	集落跡	平安・中世	竪穴住居跡・溝・上坑・畝状遺構・小穴	土師器・須恵器・灰釉陶器・陶器・石器・銅製品	長い煙道をもつ竪穴住居跡を検出。

要 約	調査の結果、竪穴住居跡2軒、溝4本、土坑3基、畝状遺構3本、小穴51基が確認された。今回発見された遺構は、隣接する塙山南児童センター地点で発見された集落の一部に含まれると考えられる。出土遺物の年代からも矛盾は生じない。また、畝状遺構の主軸方向が住居の主軸ともかなり近いことから、これも集落が営まれた時期と同時期のものと推定される。 1号溝は、2号住居を破壊して構築される。住居跡との主軸方向の相違や屢々の性質、また出土遺物の年代から、集落が営まれた時期よりも新しいものと考えられる。そして、1号溝と類似する3号溝も1号溝と近い時期の所産であろう。1号溝の底面からは常滑窯の窯の破片が出土していることから、少なくとも1号溝が埋め戻された時期が中世以降と考えられ、平安期の集落が廃絶し、中世に入ると土地利用の変更が行われたものと推察される。 当該地の字名は宇賀屋敷と呼び、その周囲は於曾屋敷、田辺氏屋敷、風間氏屋敷など中山城跡に囲まれている環境にある。今回発見された遺構は、町が発生する以前に集落が営まれ、その後、城跡跡に変化していくことを物語る重要な発見であったといえる。
-----	---



